

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：12602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K10244

研究課題名(和文) 致死性の低い手段による自殺未遂者の予後に関する研究

研究課題名(英文) Prognosis of suicide attempters by means of less lethality

研究代表者

竹内 崇 (Takeuchi, Takashi)

東京医科歯科大学・医学部附属病院・講師

研究者番号：70345289

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：致死性の低い故意の自傷も、自殺の危険因子であることが明らかにされており、身体的に重症度の軽い自殺未遂も軽視すべきではない。本研究結果より、手段が意図的な過量服薬で、精神科治療上の転帰を自宅退院とした「低致死リスク群」の特徴は、女性、双極性障害、自殺企図の既往が少ない、精神科への受診歴あり、受診中断が少ない、という傾向があることがわかった。また、この「低致死リスク群」の前方視研究により、自殺関連行動の反復の予測因子として、女性、既婚でない(未婚もしくは離婚)の可能性があるとわかった。今後さらに詳細な解析を行っていく予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国の自殺死亡数は平成24年に3万人を切ったが、依然として深刻な状況はかわっていない。自殺の予測因子として、「自殺未遂の既往」は「精神疾患の罹患」と並んで最も強力であることが知られている。本研究により、手段が意図的な過量服薬で、精神科治療上の転帰が自宅退院となった致死性が低い自殺関連行動の症例のうち、同行動の反復の予測因子として、女性、既婚でない(未婚もしくは離婚)の可能性があると示唆されたことは、今後の臨床活動に有用であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：Deliberate self-harm, while less lethal, has also been shown to be a risk factor for suicide. Therefore, although attempting suicide is physically less severe, it should not be underestimated. The "low fatal risk group," in which the means was intentional overdose and the outcome of psychiatric treatment was discharge to home, was associated with women, bipolar disorder, fewer suicide attempts, a history of psychiatric consultation, and fewer interruptions of consultation. In addition, a forward-looking study of this group has shown that the factors of women and unmarried (never married or divorced) may be predictors of repeated suicide-related behaviors. Further detailed analyses will be conducted in the future.

研究分野：精神医学

キーワード：自殺未遂 過量服薬 救急医療 救命救急センター

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国の自殺死亡数は平成 24 年に 3 万人を切ったが、依然として深刻な状況はかわっていない。自殺の予測因子として、「自殺未遂の既往」は「精神疾患の罹患」と並んで最も強力であることが知られている。致死性の低い故意の自傷も、自殺の危険因子であることが明らかにされており、身体的に重症度の軽い自殺未遂も軽視すべきでなく、自殺関連行動のみられた個人への介入は重要と考えられる。最近、主に若年者を中心として複数の精神科/心療内科診療所受診やインターネットによる安易な薬剤入手の機会が増えるといった問題が増加し、ベンゾジアゼピン系薬剤や選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)の不規則かつ不適切な服用による情動面の不安定さの誘発、衝動性制御の問題、さらに進学・就労環境の悪化など社会問題の影響など様々な要因があいまって、結果として過量服薬や自傷などの自殺関連行動が増えている。このために都市部を中心に救急搬送システムや救命救急センターの業務負担の増加を引き起こし、さらには医療経済にも大きな問題をもたらしている。

本申請者は、東京都市街地域に位置する本学医学部附属病院において平成 18 年 7 月の三次救急開設時より救命救急センター(ICU 14 床、HCU 16 床の計 30 床)における精神科領域の共同診療システムの構築にあたり、これまで非致死性自殺関連行動受診者を中心とした実態調査を予備的にすすめており、現時点で以下の結果を得ている。当院救命救急センター開設後の 7 年間に自殺関連行動により搬送された患者はのべ 971 例であったが、そのほとんどが手段として過量服薬を用いた身体的には軽症レベルのものであった。すなわち、過量服薬を手段とした自殺関連行動により救急搬送され入院にいたる症例が毎年、年間あたり 100 例を超えている。自殺関連行動により救命救急センターに受診後救急科に入院した患者に全例精神科医が診察を行い処遇について積極的にかかわった。平成 18 年 7 月～平成 25 年 6 月までの 7 年間に自殺関連行動により救急搬送され救急科に入院となった患者 971 例について調査したところ(本学医学部倫理委員会にて承認を得ている)年齢は 20 歳代が最多で 31.0%、性別は女性が多く 71.9%を占め、主診断は多い順から気分障害が 35.4%、神経症性障害及びストレス関連障害などが 29.1%、パーソナリティ障害が 15.9%、統合失調症が 12.2%であった。手段は過量服薬が最多で 79.8%、精神科などへの受診歴は 80.5%あり、受診先は近隣の診療所が半数以上を占めた。救急科への入院期間は 2 日以内が最多で 68.0%であった。転帰は退院が 82.8%、当院の精神科病棟へ入院が 6.6%、他院への転院が 10.5%だった。よって過量服薬による自殺関連行動が極めて多く、そのほとんどが短期間で退院していること、これらの半数以上が近隣の診療所に通院しており、再企図防止に向けて診療所との連携が重要であることが明らかとなった。

2. 研究の目的

前述の予備的調査結果に基づいて、本研究では致死性の低い手段である致死量に至らない過量服薬による救急搬送症例を対象として、その受診状況の実態を詳細に検討し、患者背景の解析および病状評価に基づいて非致死性自殺関連行動に関与する因子群を解析する。さらに、その後 1 年間の前方視調査を行い、患者の予後について通院している診療所との連携を図りつつ、定期的に十分な評価を行い、統計学的手法を用いて(研究計画・方法欄に詳述)自殺行動の反復および自殺既遂の予測因子の同定、および救急業務の負担軽減に必要な因子を明確化することが 3 年間における本研究の目標である。

3. 研究の方法

本研究では、まず本学救命救急センターに自殺関連行動により搬送されたすべての患者の状態像の把握を精神科医の診察によって行うこととし、各種の要因、患者背景、精神科的評価を慎重に行い自殺関連行動に関与する可能性のある要因について統計学的に検討する。さらに、「低致死リスク群」に属する、致死量に至らない過量服薬による救急搬送症例を対象として退院後 1 年間の前方視観察による経過の調査を行い自殺関連行動の反復や自殺既遂の予測因子を同定する。

4. 研究成果

(1) 本学救命救急センターに自殺関連行動により搬送された患者の状態像

手段が意図的な過量服薬で、精神科治療上の転帰が自宅退院である患者を「低致死リスク群」とし、「低致死リスク群」に該当しない致死性の高い手段による自殺関連行動の患者(「高致死リスク群」と、年齢、性別、診断、飲酒の有無、社会的要因、企図の特徴、精神科受診歴・入院歴、受診状況、企図の既往、希死念慮の発現時期、同居者の有無、身体疾患の有無、救急科への入院期間、転帰について比較検討を行った。

入院患者は全体で 174 名、このうち「低致死リスク群」が 106 名、「高致死リスク群」が 68 名であった。以下に有意な差が得られた項目について提示する(表 1)。性別では、「高致死リスク群」で男性が有意に多かった。診断については、「低致死リスク群」で双極性障害、「高致死リスク群」で適応障害が有意に多くみられた。自殺企図の既往は「高致死リスク群」、受診歴有は「低致死リスク群」、受診状況で中断例は「高致死リスク群」が有意に多かった。

表1 低致死リスク群と高致死リスク群の比較 ()内は%

	全体	低致死リスク群	高致死リスク群	p
性別	174	106	68	
男性	75 (43.1)	34 (32.1)	41 (60.3)	.00
女性	99 (56.9)	72 (67.9)	27 (39.7)	
診断				
うつ病	26 (14.9)	18 (17.0)	8 (11.8)	.31
双極性障害	20 (11.5)	17 (16.0)	3 (4.4)	.02
統合失調症	20 (11.5)	12 (11.3)	8 (11.8)	.96
適応障害	61 (35.1)	27 (25.5)	34 (50.0)	.00
パーソナリティ障害	23 (13.2)	15 (14.2)	8 (11.8)	.62
自殺企図既往				
無	78 (44.8)	40 (37.7)	38 (55.9)	.02
受診歴の有無				
有	123 (70.7)	88 (83.0)	35 (51.5)	.00
受診状況				
中断	25 (20.3)	14 (15.9)	11 (31.4)	.00

(2) 「低致死リスク群」の患者の前方視調査

「低致死リスク群」の106名のうち、前方視研究に対し同意が得られた43名について、退院後1か月、3か月、6か月、1年の時点で患者本人に電話連絡を行い、過量服薬を再度して医療機関で治療を受けたことがあるか否か、精神科医療機関の治療を継続しているか否かについて聴取した。なお、経過中連絡がつかなくなった、もしくは同意が撤回された症例が9名おり、調査を最後まで実施できたのは34名であった。このうち「再企図なし群」が25名、「再企図あり群」が9名という結果であり、これらを比較検討した(表2)。

表2 「低致死リスク群」の患者の前方視調査 ()内は%

	全体	再企図なし群	再企図あり群	p
性別	34	25	9	
男性	11 (32.4)	11 (44.0)	0 (0)	.02
女性	23 (67.6)	14 (56.0)	9 (100)	
婚姻				
未婚	17 (50.0)	12 (48.0)	5 (55.6)	.04
既婚	9 (26.5)	9 (36.0)	0 (0.0)	
死別	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
離婚	7 (20.6)	3 (12.0)	4 (44.4)	

「低致死リスク群」において、再企図がみられたのは全員女性であった。また、既婚者には再企図がみられなかった。なお、症例数が少なく、ロジスティック回帰解析は施行できなかった。

本研究結果より、手段が意図的な過量服薬で、精神科治療上の転帰を自宅退院とした「低致死リスク群」の特徴は、女性、双極性障害、自殺企図の既往が少ない、精神科への受診歴あり、受診中断が少ない、という傾向があることがわかった。また、この「低致死リスク群」の前方視研究により、自殺関連行動の反復の予測因子として、女性、既婚でない(未婚もしくは離婚)の可能性があることがわかった。今後さらに詳細な解析を行っていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Takashi Takeuchi, Yasuyuki Okumura, Kanako Ichikura	4. 巻 74
2. 論文標題 Alcohol Consumption or Excessive Use of Psychotropic Medication Prior to Suicidal Self-injury in Patients With Adjustment Disorder, Depression, and Schizophrenia: A Cross-sectional Study.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Acta Medica Okayama	6. 最初と最後の頁 49-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/AMO/57952.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	武藤 仁志 (Muto Hitoshi) (50782710)	東京医科歯科大学・医学部附属病院・助教 (12602)	
研究分担者	富重 智徳 (Tomishige Tomonori) (10782724)	東京医科歯科大学・医学部附属病院・医員 (12602)	削除：2017年3月21日
研究分担者	治徳 裕美 (Jitoku Hiromi) (30782742)	東京医科歯科大学・医学部附属病院・看護師 (12602)	
研究分担者	村上 一徳 (Murakami Kazunori) (40644795)	東京医科歯科大学・医学部附属病院・臨床心理士 (12602)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	奥村 泰之 (Okumura Yasuyuki) (50554383)	一般財団法人医療経済 研究・社会保険福祉協会（医療経済 研究機構（研究部））・医療経済研究機構・主任研究員 (82680)	